

感染症情報 6月19日～25日

府下小児科200療機関(堺市19)から

①感染性胃腸炎	1652例(堺市	86例)
②手足口病	962例(堺市	63例)
③溶連菌感染症	707例(堺市	51例)
④ヘルパンギーナ	185例(堺市	18例)
⑤咽頭結膜熱	170例(堺市	14例)

府下インフルエンザ定点307医療機関(堺市29)から

インフルエンザ	38例(堺市	2例)
---------	--------	-----

が報告された。

感染症報告数は前週から3件減の4,042件であった。報告の第1位は感染性胃腸炎で以下、手足口病、溶連菌感染症、ヘルパンギーナ、咽頭結膜熱の順であった。

1位の感染性胃腸炎は府下で前週比3%減、堺市では前週比41%増であった。2位の手足口病は府下で前週比8%増、堺市で34%増であった。定点当たりの報告数は前週4.4→今回4.8でさらに増加している。溶連菌感染症は府下で前週比5%減、堺市で9%減であった。ヘルパンギーナは府下では前週比8%増、堺市で前週8例→今回18例であった。咽頭結膜熱は府下で前週比16%減、堺市で前週14例→今回14例で同数であった。

インフルエンザは府下では前週41例→今回38例であった。堺市では前週5例→今回2例であった。

麻疹や風疹の報告はなかった。